

# 農業技術情報

平成23年10月15日  
ゆとりみらい21推進協議会指導部会

十勝農業改良普及センター十勝東部支所  
015-572-3128  
JA 幕別町 54-2302  
JA 札内 56-2131  
日甜東部センター 54-2756  
幕別町農林課 54-6605

各作物の生育状況(幕別町10月15日現在)

( )内は平年値

作物名	生育良否	生育状況	生育期節・作業状況
秋まき小麦	やや不良	草丈 4.0(11.4)cm 茎数 257(220)本/m <sup>2</sup> 葉数 0.8(2.6)枚	は種期 10/3 (9/24) は種終 10/10(10/5) 出芽期 10/11(10/3)
てん菜	やや良	根周 37.0(36.7)cm	収穫始 10/15(10/15)
大豆	並		成熟期 10/3(10/3)
小豆	-		収穫始 10/3 (9/25) 収穫期 10/10(10/11)
牧草	-	2番草収量 1,387(1,387)kg/10a	2番草収穫終 10/4(9/18)
飼料用 とうもろこし	-	生総重 6,136(5,719)kg/10a	収穫終 10/6(10/7)
ながいも (マルチ栽培)	やや良	いも長 80.8(75.5)cm いも径 63.7(65.2)mm いも重 1,253(1,180)g	

## 畑作

### 1 秋まき小麦

秋まき小麦は出芽期が平年より8日遅れ、草丈・葉数ともに平年を下回っています。

#### (1) 雪腐病防除

秋まき小麦の雪腐病防除は、根雪前の11月中旬をめどに防除を行ってください。は種作業が遅れたため3葉前後で越冬することが予想されます。十分に薬剤が付着するように注意して、適期に防除してください。

また、多量の降雨や根雪が遅くなった場合は、可能な限り再散布を実施してください。

病害名	薬剤名	使用濃度	使用回数	使用時期	雪腐病		
					紅色雪腐病	黒色小粒菌核病	大粒菌核病
雪腐病	バシタックベフランゾル	400倍	2回	根雪前			
	トップジンM水和剤	2,000~ 2,500倍	3回		×	×	
	フロンサイド水和剤	1,000倍	2回				

トップジンM水和剤の使用回数は赤かび病防除を含めて3回まで

以下の場合、再散布が必要となります。

薬剤散布後、積算雨量が 30mm 以上となった 薬剤散布から根雪までの期間が 20～30 日以上になった
---

【参 考】過去の根雪初日（帯広測候所調べ）

年 次	H18	H19	H20	H21	H22	平 年
根雪初日	12/7	12/13	12/11	12/3	12/13	12/10

## 2 緑肥の処理・来年に向けた準備

### (1) 後作緑肥のすき込み時期と方法

後作緑肥のすき込みは、時期を逃すと緑肥の雑草化と分解の遅れを招きます。気温、地温が確保できるうちにすき込んでください。

主な後作緑肥のすき込み適期とすき込み方法

緑肥作物（品種）	すき込み時期	判断の目安	すき込み方法
えん麦（スワン） えん麦野生種 （ハイオーツ、サイヤー）	10 月中 下旬	は種後 60 日目頃 または 出穂後 7～10 日	・ストローチョッパーで細断後、 プラウですき込む ・ロータリーやディスクハローで 混和した後にプラウですき込む
シロカラシ （キカラシ、サーベル）		は種後 50 日目頃 または	
ひまわり（りん蔵、ソフィア）		開花後 7～10 日	

### (2) てんさい育苗土の pH 矯正と施肥

秋のうちに pH 矯正、施肥を済ませましょう。育苗土の目標 pH は 6.0～6.5 です。石灰資材の混和ムラによる苗枯病に注意してください。

### (3) 適正な施肥で低コスト経営を

計画的で適正な施肥のために 3～4 年に一度、土壌診断を実施しましょう。リン酸・カリの蓄積が進んでいるほ場では、土壌診断に基づいた肥料銘柄・施肥量の見直しで肥料費の削減が可能です。

### (4) 地温の下がる前に心土破碎を

防除畦や滞水の発生した場所を中心に排水対策を実施してください。地温が下がり土壌水分が高くなると、作業効率の低下と土の練り返しを招きます。

## 3 翌年の野良いも対策

野良いもの発生が懸念される場合は、以下を参考にしてください。

凍結を促す除雪の条件

- ・ 12～1 月で積雪 20cm 以上となった場合に除雪を行う
- ・ 除雪は低温・無降雪の続く時期がよい（早く凍結が進む。平均 -10 以下が望ましい）

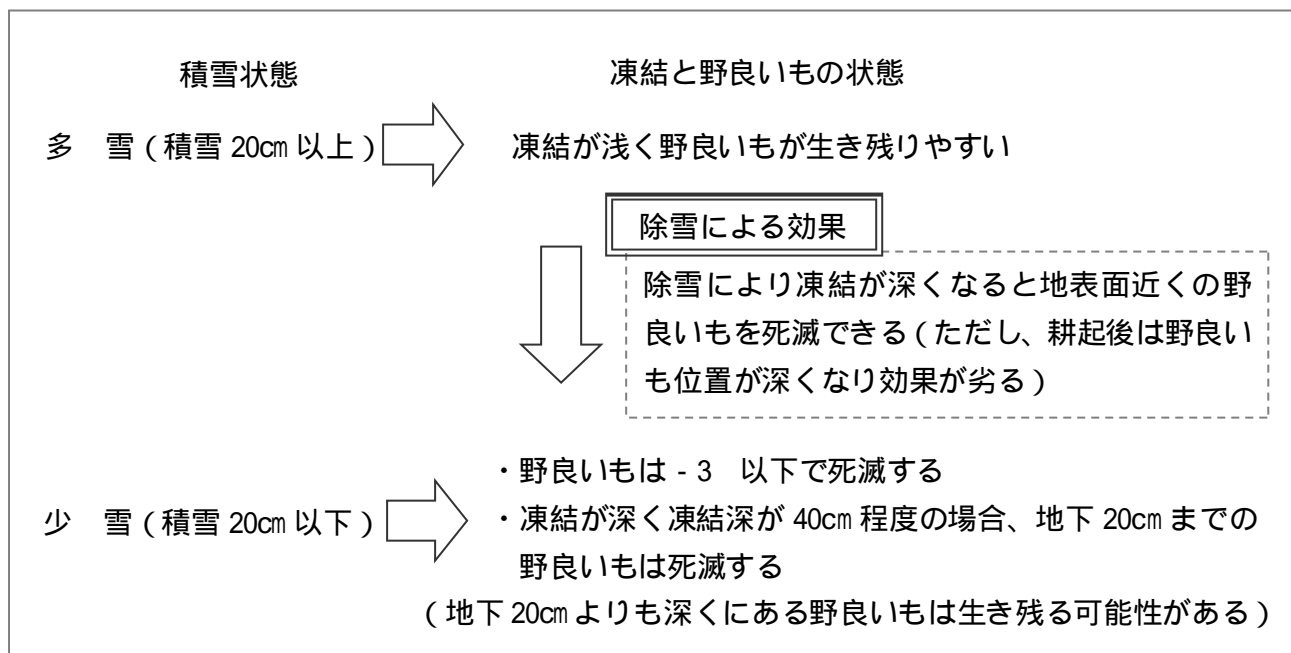
- ・野良いも除去を優先させる場合、秋耕起により野良いもを深くすき込まない方が効果は高い（ただし、低地土など秋耕起の必要な土壌条件では耕起を優先させる）

【注意】圧雪した場合、効果がばらつくことがある

除雪に向かない条件

- ・植え付け時期の早い後作（てんさい・馬鈴しょ）の場合は避ける（凍結が深くなり植え付け作業の遅れにつながる）
- ・秋まき小麦は、作物やほ場を傷める懸念があるため行わない

【参 考】除雪による野良いも対策のメカニズム



## 野 菜

### 1 ながいも

#### （1）10月15日現在の作況調査（マルチ栽培）

平均 1 本いも重は1,253g（平年比106%）、いも長は80.8cm（平年比107%）で平年を若干上回っています。しかし、いも径は63.7mm（平年比98%）で若干細い傾向となっています。尻部の形状は丸くなってきていますが、まだ、尻部先端が黄色で未熟です。

いもの登熟（乾物率）

いもの乾物率は、13.2%（平年14.3%）で平年より低い傾向となっています。

#### （2）つる切り

本年は茎葉の黄変が大幅に遅れ、霜による枯葉が見られることから、茎葉黄変によるつる切り時期の目安は難しくなっています。

したがって、つる切りは10月20日以降に実施し、つる切り前には試し掘りを行って、尻部が丸く硬くなっていることを確認してから実施してください。

いも傷や折れの発生を抑えるために、つる切りから収穫までの期間を10日間以上とって、いも表皮の登熟を図る必要があります。

### (3) 収穫の注意点

いも長が平年より若干長いため、掘り取り深さの調整が必要です。

また、いも径が細いため、掘り取り時の折れに注意が必要です。

本年は土壌病害の発生が多くなっています。腐敗いもやクズいもの放置は、土壌病害拡大の原因となりますので、ほ場外へ搬出して処分してください。

- ・日没が早く、視界もすぐに悪くなります。  
ゆとりをもって、無理のない作業に心がけてください。
- ・公道を通行する場合は、早めにライトを灯火し夜光反射板や低速車マークを装着しましょう。
- ・収穫機の調整や詰まり除去のときは、必ずエンジンを止めましょう。
- ・衣服の裾やひも等は、機械に巻き込まれる危険を高めま。バサバサさせずに身体に密着させましょう。
- ・機械の周辺では、声を掛け合ってお互い事故の防止に努めましょう。
- ・ダンプトラックの荷台を上げて作業するときは、油圧を過信せず、念のためストッパーを使用しましょう。
- ・収穫残さ物のほ場での焼却は止めて堆肥化に努めましょう。

